

< 中間処理施設 >

施設の名称 : 水島クリーンセンター
施設の種類 : 汚泥の焼却施設、廃プラスチック類の焼却施設、産業廃棄物の焼却施設
品目 : 汚泥、廃プラスチック類（自動車等破砕物を除く。）
紙くず・木くず・繊維くず・ゴムくず（これらのうち石綿含有産業廃棄物を除く。）
設置年月日 : 平成11年3月3日 汚泥の焼却施設、廃プラスチック類の焼却施設
: 平成22年2月25日 産業廃棄物の焼却施設：紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず（これらのうち石綿含有産業廃棄物を除く。）
位置 : 岡山県倉敷市水島川崎通一丁目18番
焼却能力 : 汚泥420 m³/日、廃プラスチック類78 t/日、紙くず163 t/日
木くず194 t/日、繊維くず101 t/日、ゴムくず67 t/日
稼働時間 : 24時間/日
焼却施設 : 旋回型流動床式連続焼却炉 2炉
火床面積 : 12.5 m²/炉
燃焼ガス温度 : 800℃以上
燃焼ガス滞留時間 : 2秒以上

環境保全対策：

(1) 排ガスの処理方法

- 1) ばいじん 0.02 g/Nm³以下
集塵機（バグフィルタ）による捕集
- 2) 窒素酸化物 3.30 Nm³/h 以下
2段焼却による低NO_x 化
焼却炉出口での尿素水吹込みによる無触媒還元
- 3) 硫黄酸化物 2.50 Nm³/h 以下
焼却炉内流動砂への石灰石投入による炉内脱硫
集塵機前での消石灰吹込みによる反応除去
- 4) 塩化水素 392 mg/Nm³以下
集塵機前での消石灰吹込みによる反応除去
- 5) ダイオキシン類
0.5 ng-TEQ/Nm³以下（自主管理値：0.1 ng-TEQ/Nm³以下）
焼却炉内及び排ガス温度管理によるダイオキシン類の発生抑制
集塵機前での活性炭吹込みによる吸着除去

(2) 燃え殻及びばいじんの処理方法

- 1) 燃え殻 金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令に基づく判定を定期的
に実施し、安全性を確認した上で、自社処分場に最終処分している。
- 2) ばいじん 灰処理設備で無害化処理を行い、自社処分場に最終処分している。また、定
期的に金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令に基づく判定を
定期的
に実施し、安全性を確認している。

<管理型最終処分場>

| | |
|--------|--|
| 施設の種類 | : 管理型最終処分場 |
| 品目 | : 燃え殻、汚泥（無機性汚泥に限る。）、廃油（タールピッチ類に限る。）、 廃プラスチック類（自動車等破砕物を含む。）、ゴムくず、金属くず（自 動車等破砕物を含む。）、ガラスくず・コンクリートくず（がれき類を除 く。）、陶磁器くず（自動車等破砕物を含む。）、鋳さい、がれき類、ば いじん、産業廃棄物を処分するために処理したもの（これらのうち石綿含 有産業廃棄物を含む。）、廃石綿等 |
| 設置年月日 | : 平成21年2月27日 |
| 位置 | : 岡山県倉敷市水島川崎通1丁目14番1及び17番の地先公有水面 |
| 埋立廃棄物量 | : 2,400,000 m ³ |
| 埋立総面積 | : 229,000 m ² |

環境保全対策:

(1) 浸出水の処理方法

① 排水処理

処分場内の余水は、排水処理場に集められ、環境省により定められた基準はもちろん、さらに厳しい基準である所在市との環境保全協定等の排水基準をクリアするきれいな水に処理して排水している。

② 排水と周辺水域の監視

排水及び護岸周辺の公共水域については、項目・頻度を定めて定期的に水質の監視を行っている。

(2) 飛散・流出防止の方法

① 安全管理（構造物）

処分場の護岸を定期的に計測器等で監視し、異常がないことを確認する。

② 環境管理

処分場の道路に散水し、ほこりの発生を防ぐ。また、処分場を出る前に洗車場で運搬車のタイヤを洗い、環境管理に万全を期している。

(3) 防災設備の構造

① 安全管理（火災防止）

毎回、運搬車が計量ゲートを通るたびに廃棄物を検温する等、廃棄物に危険性がないかどうかチェックする。

② 抜き取り検査

運搬車からの廃棄物抜き取り検査で異常があった場合は、一旦受入を停止し、改善してもらうよう指導する。